

# 東アジアの平和をどう築いていくか

## 日本、中国、米国、そして沖縄から 戦後70年を問い直す

### シンポジスト

新しい日中関係  
を考える



毛里 和子

早稲田大学  
名誉教授

歴史を鑑に新たな  
中日関係をめざして



歩 平

中国社会科学院  
近代史研究所

沖縄から見た  
日中関係



新崎 盛暉

沖縄大学  
名誉教授

歴史を振り返り  
新たな未来をどう築くか



笠原 十九司

都留文科大学  
名誉教授

米国から見た  
日中関係



マイケル チュチェック

上智大学  
Adjunct Professor

### 【日時】

2015年7月25日（土）

開場12:30

開会13:00 閉会17:00

### 【会場】

法政大学市ヶ谷キャンパス

外濠校舎7階

「薩埵（さった）ホール」

### 【参加費】

1,000円（申込不要）

※学生無料。受付で学生証を提示してください。

### 司会



屋嘉 宗彦  
法政大学  
法学部教授



大西 広  
慶應義塾大学  
経済学部教授

### 挨拶

大村 新一郎 日中友好協会副会長

進藤 榮一 国際アジア共同体学会代表

※終了後、

ポアソナーダタワー26階スカイホールにて  
交流会（希望者のみ。参加費：1,000円）

日本と近隣諸国は領土、歴史認識をめぐる問題についても対立し東アジア地域の緊張が続いています。日本の植民地支配と侵略戦争そのものを否定する歴史修正主義の台頭も一因となっていますが、平和憲法が危機に瀕している中で、日本が過去とどう向き合うべきか、そして今後とるべき対応とは何か。今年を抗日戦争勝利70周年、世界反ファシズム戦争勝利70年とも位置付けている中国。そして昨年の各種選挙で明白に反戦、反基地の意志を突き付けた沖縄。そして、「アジア回帰」をはかる米国は日本ならびに中国との関係をどう構築しようとしているのか。

東アジアの現状をどのように捉え、どう平和を築いて行くか。本シンポジウムではそれぞれの立場から戦後70年を問い直していきます。

〈毛里 和子〉

早稲田大学名誉教授、中国・華東師範大学顧問教授。財・日本国際問題研究所研究員、静岡県立大学国際関係学部教授、横浜市立大学国際文化学部教授を経て早稲田大学政治経済学術院教授。「新しい日中関係を考える研究者の会」前代表幹事。「国際中国学研究貢献賞」「福岡アジア文化賞」「石橋湛山賞」などを受賞。2011年文化功労者。

〈歩 平〉

黒龍江省社会科学院歴史研究所所長を経て、同科学院副院長・日本問題研究センター主任、黒龍江省歴史学会副会長を歴任し、のち中国社会科学院近代史研究所長に就任。2006年中日歴史共同研究の中国側座長。民間の歴史共通教材作りにも参加。「日本の中国侵略と毒ガス兵器」など著書多数。

〈新崎 盛暉〉

1978年伊波普猷賞、84年沖縄研究奨励賞、06年日本平和学会第一回平和賞、13年沖縄タイムス文化賞受賞。沖縄大学教授、学長を務め、退任後、名誉教授。沖縄現代史を論じる。「沖縄平和市民連絡会」代表世話人。

シンポジスト略歴

〈笠原 十九司〉

宇都宮大学教育学部教授、都留文科大学文学部教授を経て、都留文科大学名誉教授。学術博士（東京大学）。専門は中国近現代史、日中関係史。『アジアの中の日本軍—戦争責任と歴史学・歴史教育』（大月書店）、『南京難民区の百日一虐殺を見た外国人』（岩波現代文庫）など著書多数。

〈マイケル チュチェック (Michael Cucek)〉

テンプル大学ジャパン現代アジア研究所非常勤研究員、ラングレー・エスクワイアのアドバイザー、政治アナリスト。スタンフォード大学卒業後、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、コロンビア大学の大学院で学び、1994年に訪日。フォーリン・ポリシー誌、東アジアフォーラム、アルジャジーラ、インターナショナル・ヘラルド・トリビューンなどに寄稿。

アクセス

(会場)

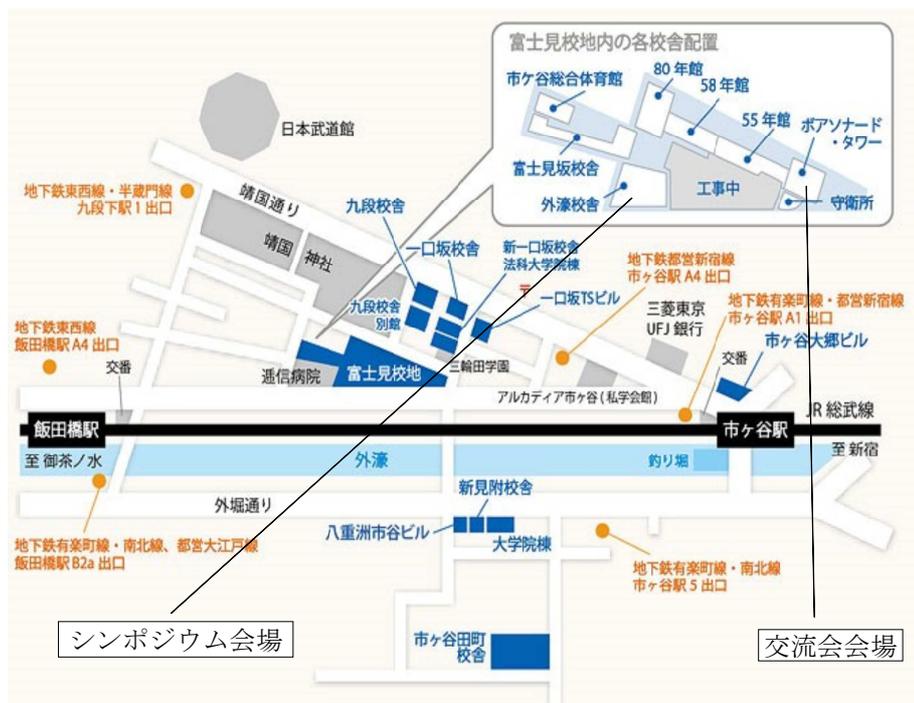
法政大学市ヶ谷キャンパス  
外濠校舎7階  
「薩埵(さった)ホール」

(JR、地下鉄ともに)

市ヶ谷、飯田橋駅下車10分程度

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1



〈お問い合わせ〉

日本中国友好協会 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学会ビル3F

TEL: 03-3234-4700/Fax: 03-3234-4703 E-mail: nicchu@jcfa-net.gr.jp